

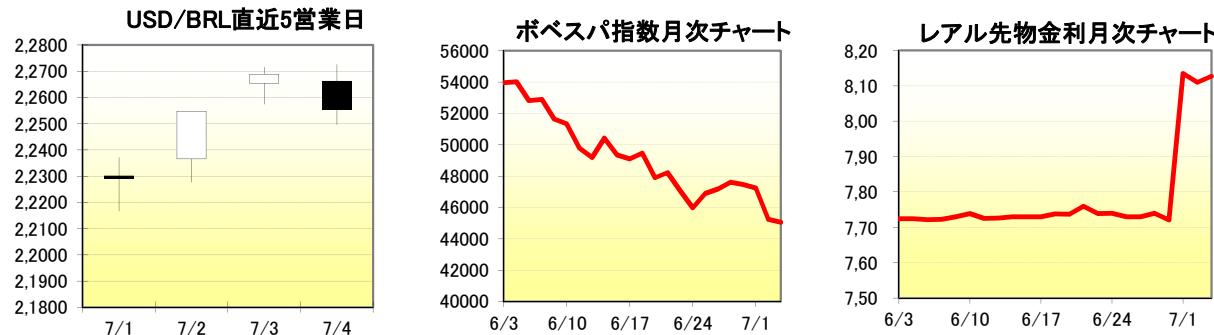
# Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



## 1. マーケット・レート

			7月1日	7月2日	7月3日	7月4日	<b>7月5日</b>	Net Chg
<b>Forex</b>	USD/BRL	Spot	2,2300	2,2500	2,2670	2,2600	<b>2,2620</b>	+0,0020
	USD/YEN	Spot	99,63	100,60	100,04	100,08	<b>101,20</b>	+1,1200
	EUR/USD	Spot	1,3065	1,2977	1,3007	1,2915	<b>1,2831</b>	-0,0084
	BRL/YEN	Spot	44,70	44,61	44,09	44,50	<b>44,94</b>	+0,4400
<b>Swap</b>	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,41	1,32	1,33	1,41	<b>1,59</b>	+0,1804
		1Year(p.a.)	1,53	1,45	1,48	1,55	<b>1,73</b>	+0,1766
	Real Interest	6MTH(p.a.)	8,93	8,86	8,84	8,86	<b>8,82</b>	-0,0389
		1Year(p.a.)	9,38	9,25	9,17	9,21	<b>9,22</b>	+0,0075
<b>Stock</b>	<b>Bovespa</b>		47,230	45,229	45,044	45,763	<b>45,210</b>	-552,67
<b>Bond</b>	<b>CDS Brazil 5y</b>		187,71	191,49	201,54	204,33	<b>209,98</b>	+5,6450
	<b>Global 40</b>		119,250	118,250	118,250	118,250	<b>119,000</b>	+0,7500

\* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインデイケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィcerまでお問い合わせ下さい。



## 2. 主要経済指標

## 3. 要人コメント

イベント	予想	実績	前回	マンテガ伯財務相	生活必需品に対する輸入税免除を検討
FGVインフレ率-IGP-DI(6月)	0.68%	0.76%	0.32%		
IBGEインフレ率-IPCA(前月比,6月)	0.33%	0.26%	0.37%		
インフレ率(IPCA)-	6.77%	6.70%	6.50%		
IBGE(前年比,6月)					

## 4. 週間市況、トピックス

- 今週の為替相場は U\$1=R\$2.2300 で寄り付いた。
- 週初は米 ISM 製造業景況指数が予想比良好な結果となるとリスク資産に買いが入り、レアルもつられて上昇、週間高値となる U\$1=R\$2.2170 まで買い進めた。
- 翌 2 日には 5 月の伯鉄工業生産が予想を大きく下回る結果となったことが嫌気され、レアルは 2.25 台まで反落した。
- 週央にかけてはボルトガルで閣僚 2 人が辞任したことを受け同国の政局不安が欧州債務危機を再燃させるとの懸念が強まり、ユーロやリスク資産の売りが見られるとレアルも 2.2700 まで続落した。同日の夕方には伯政府が長期輸出前貸しの取扱い可能期間を 5 年から無期限に変更すると発表した。
- 翌 4 日には米国市場が祝日で休場のためレアル相場の流動性は極めて限定的な展開となる中、長期輸出前貸しの取扱い期間変更を受けて朝方から輸出筋と思しきドル売りが見られ、レアルは 2.2500 まで上昇した。しかし、ピメンテル伯貿易相の「現在のレアルは新たな水準にあり、ドル/レアルは 2.00 以下に戻ることははないだろう」とのコメントを受けてレアルは反落、週間安値となる U\$1=R\$2.2730 を付けた。その後伯中銀によるドル売り介入が 2 度通知され、レアルは 2.2600 まで反発した。
- 週末にかけては 6 月の米雇用統計が発表され、予想を大きく上回る結果となったことから米緩和ペースの減速観測が高まり、対主要通貨でドルが上昇、レアルは一気に 2.26 台半ばまで下落し、暫く同水準で小幅に推移した。しかし引け間際にマンテガ伯財務相がルセフ大統領と会談するとの報道を受けてレアルは一時的に 2.25 台前半まで急反発したが、結局 U\$1=R\$2.2620 で越過した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生じるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

# Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



## 5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
7/8	FGV CPI IPC-S	jul/07	0.33%	0.35%
7/8	CNI設備稼働率(季調済)	May	--	83.3%
7/8	貿易収支(FOB)-週次	jul/07	--	--
7/9	IGP-M Inflation 1st Preview	Jul	0.52%	0.43%
7/10	ブラジル Selic ターゲットレート	jul/10	8.5%	8%
7/11	FIPE消費者物価指数(週次)	jul/07	--	0.30%
7/11	小売売上高指数(前月比)	May	-0.4%	0.5%
7/11	小売売上高指数(前年比)	May	3.0%	1.6%
7/11	広義小売売上高(前年比)	May	3.6%	9.1%
7/12	経済活動指数(前月比/季調済)	May	-0.80%	0.84%
7/12	経済活動指数(前年比/季調前)	May	3.00%	7.30%

## 6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ : 2.20-2.30

今週は米祝日を受けてレアル相場の流動性は極めて限定的となる中、予想を大幅に下回る伯鉱工業生産の結果や、米雇用統計の良好な結果を受けてレアルは 2.2730 まで下落した。更にポルトガルの政局不安を受けて欧州債務危機の再燃が懸念されており、今後の欧州の動向にも目が離せない状況となっている。ブラジルや欧州の景気悪化が懸念される中、米経済は回復傾向にあり、今後もドル高トレンドは続くと予想される。伯政府はドル/レアル相場が新たな水準にあり、今後同水準で落ち着くとの見通しを示しているが、ドル高によるインフレへの影響を指摘する声も聞かれ、対応策として輸入品に対する課税の引き下げ等が検討されている模様。来週は国内では 9 日がサンパウロ州の祝日のため休場となるほか、10 日には伯金融政策委員会 (COPOM) の開催が予定されており、0.50%の利上げが予想される。声明からは伯中銀のインフレに対するスタンスを確認することができ、今後の利上げサイクルに対するヒントが出されるかどうかに注目が集まっている一方、海外では 10 日に発表される FOMC 議事録が注目され、内容次第でレアル相場は大きく動く可能性があり、注意が必要であろう。